

会議記録			
会議の名称	産業建設常任委員会		会議場所 全員協議会室 担当職員 駒田
日時	令和6年7月16日（火曜日）	開議 午前 10 時 00 分 閉議 午後 0 時 12 分	
出席委員	◎林、○片山、法貴、山木、小川、齊藤、木村、（菱田議長）		
出席理事者	【まちづくり推進部】清水全国都市緑化フェア担当部長 【都市計画課】田中課長 【全国都市緑化フェア推進課】玉井課長、太田主幹 【産業観光部】松本部長 【商工観光課】坂田課長、松浦觀光振興係長 【一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）】井上社長、田淵取締役		
出席事務局	吉田事務局長、野澤副課長、駒田主任		
傍聴者	市民 0 名	報道関係者 1 名	議員 1 名（土岐）

## 会議の概要

10：00

### 1 開議（林委員長あいさつ）

[事務局日程説明]

### 2 行政視察の総括

<林委員長>

事前に提出いただいた意見等を別紙のとおりまとめたが、追加する意見等があればお願ひする。

<片山副委員長>

下関市の報告書に関して、ジビエ活用については京都府内でも様々な取組が行われている中で、亀岡市における具体的な動きがないように感じている。実現の可能性についてより言及してもよいのではないか。

<齊藤委員>

他の委員から有害獣捕獲後の火葬処理に関する意見があり面白いと感じたが、火葬する事業者がいないことが課題ではないか。現在の埋設処理では限界があるため、処理方法について検討が必要である。

<木村委員>

福知山市などでジビエをペットフードに活用する取組もあるが、そのような事業を担うことができる事業者が亀岡市内にいるのかということと、加工後の販路が課題であると感じた。

<法貴委員>

埋設処理に関して、現在の埋設場所は臭気もひどく熊が下りてくるという問題もある。その点は早急に改善すべきであると感じている。亀岡市にジビエ加工のノウハウを持つ事業者が移住されたという話もあり、そういう事業者をぜひサポートしていきたい。ジビエ活用のための施設については、公設民営が理想である。

<小川委員>

亀岡市において有害鳥獣による農作物への被害は拡大しており、下関市の取組は参考になった。捕獲後の火葬処理ということも並行して考えていきたいが、処理するための施設や人材がなければジビエ活用は難しいと感じた。また、処理以前に里山の管理や整備も進めていかなければならないと考えている。

<山木委員>

亀岡市にジビエ活用のための施設を設置する場合は、場所が課題であると考えている。処理するまでの時間短縮の問題もあるが、広域化も踏まえて交通アクセスのよい場所で検討すべきである。

<林委員長>

下関市の報告書については、各委員からの意見を踏まえて、有害獣捕獲後の処理方法やジビエ活用を亀岡市で検討する場合の課題について意見を追加したいがよいか。

(全員了)

<林委員長>

他の視察先についてはどうか。

<齊藤委員>

岡山理科大学で視察した好適環境水による陸上養殖の取組について、公設民営で実施できればと思う。

<木村委員>

亀岡市で実施するのであれば、桜塚クリーンセンターの熱エネルギーを活用できないか。陸上養殖の取組は他市での実績もあるため、本市においても積極的に考えてはどうかと思う。

<法貴委員>

新たな産業の創出につながる事業であり、廃校舎の新たな活用方法としても前向きに考えることができればよい。

<齊藤委員>

事業にかかる経費の約40%が電気料金とのことであり、その電力をどれだけ削減できるかが課題である。環境先進都市としても、環境にやさしい発電方法も含めて検討すべきである。また陸上養殖で出る魚のふんを野菜の栽培に活用するのも良いかと思う。

<片山副委員長>

経営という観点では課題もあるかと思う。挑戦される事業者がいなければ厳しいのではないか。

<林委員長>

岡山理科大学の報告書については、各委員からの意見を踏まえて、環境先進都市としての発電方法の検討や、経営として成り立つビジネスモデルの構築という観点について意見を追加したいがよいか。

(全員了)

<林委員長>

他の視察先について、意見がなければこのとおりとしてよいか。

(全員了)

<林委員長>

今後、報告書を作成し、執行部への情報提供やホームページへ掲載していくこととするので、文言等の整理については正副委員長に一任願う。

10：23

### 3 わがまちトーク応援議員の選出について

<林委員長>

わがまちトーク応援議員の選出について事務局から説明願う。

<事務局主任>

10月から11月にかけてわがまちトークが開催される予定であるが、10月18日午後7時から本梅町自治会館で開催の本梅町自治会とのわがまちトークは、多くの参加者が見込まれるため広報広聴会議委員だけでは対応できないとのことで、議会運営委員会を通じて応援議員の参加要請があった。本常任委員会から、広報広聴会議委員である林委員長、片山副委員長、法貴委員、山木委員を除き、2名を選出いただきたい。

<林委員長>

事務局からの説明のとおり、10月18日本梅町自治会とのわがまちトークに従事いただく議員を選出したいが意見はあるか。

<木村委員>

応援議員として参加する。

<小川委員>

同じく応援議員として参加する。

<林委員長>

産業建設常任委員会からの応援議員として、木村委員と小川委員の2名を選出することによいか。

(全員了)

10：26

### 4 行政報告

[まちづくり推進部入室]

[まちづくり推進部全国都市緑化フェア担当部長あいさつ]

(1) 全国都市緑化フェア in 京都丹波に係る基本計画策定等について

[全国都市緑化フェア推進課長 説明]

10：37

[質疑]

<法貴委員>

委託事業者の一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会はどのような事業者なのか。

<全国都市緑化フェア推進課長>

景観や風景の設計に関するコンサルタント業務を行う職能団体である。

<法貴委員>

今後地域でワークショップ等を開催しながら事業を進めていくことであるが、どのような団体に声をかける予定なのか。

<全国都市緑化フェア推進課長>

7月23日開催予定の第1回ワークショップに参加いただく亀岡市内の団体としては、かめおか霧の芸術祭実行委員会、亀岡人と自然のネットワーク、亀岡・花と緑の会、かめおかコンベンションビューロー、一般社団法人Foginに参加を依頼している。南丹市と京丹波町もそれぞれ関係する団体へ依頼している。

<法貴委員>

ワークショップも2市1町合同で実施されるのか。

<全国都市緑化フェア推進課長>

ワークショップは2市1町合同で、1か所に集まり開催する予定である。

<法貴委員>

ぜひとも多くの意見を反映いただきたい。

<齊藤委員>

オープンガーデンに取り組まれている方にも参加いただき、盛り上げていただければと思う。全国都市緑化フェア開催期間中にオープンガーデンに取り組まれている家庭のリストを作成し、公開するというのも一案である。また2市1町の交通ネットワークが課題であるが、会場をどのように巡回していただけるかについて、所見は。

<全国都市緑化フェア推進課長>

ワークショップは今後参加者を拡大していく予定であり、オープンガーデンに取り組まれている方々にもぜひ協力いただきたい。地域の二次交通の課題はフェア自体の課題であると認識している。この機会に実証実験などに取り組み、地域課題の解決のきっかけとしていきたい。

<全国都市緑化フェア担当部長>

オープンガーデンは亀岡・花と緑の会が中心となっていただいている、今後の連携は十分可能であると考えている。

<木村委員>

交通の課題に関連して、コロナ禍以降減便されている状況を解消するため、積極的にJRへ要望するなど働きかけていただきたい。フェア拠点のひとつであるわち山野草の森はどのような場所か。

<全国都市緑化フェア推進課長>

JRの件については、2市1町で構成する連絡協議会でも働きかけていただいているので、関係者と協力していきたい。わち山野草の森については、希少な山野草を見ていただける場所である。珍しい植物が多くあり、多くの方に足を運んでいただけるようにしていきたい。

<小川委員>

地域で一体となって盛り上げることが大事である。各市町の状況もあると思うが、2市1町で温度差がないよう進めていただきたい。森の京都DMOとは連携や情報共有はされているのか。

<全国都市緑化フェア推進課長>

2市1町で温度差がないよう進めていきたい。森の京都DMOには幹事会に参画いただいており、引き続き連携していきたいと考えている。

<山木委員>

広域的なイベントとして地域全体の機運が高まっていないのではと感じている。協議会としての会議はオープンにしているのか。

<全国都市緑化フェア推進課長>

現時点では内部の会議しか実施しておらず、7月に実施するワークショップが初めてのオープンな会議である。

<山木委員>

プレイベントなど、地域の機運を高めていくような取組は計画されているのか。

<全国都市緑化フェア推進課長>

地域の方にはホストとしてイベントを盛り上げていただきたいと考えている。おもてなしの環境を整えるため、ワークショップでの意見も参考にしながら、まずはイベントをサポートいただけるボランティアを募集していきたい。

<片山副委員長>

障がいのある方などからは、こういったイベントに参加しづらいという意見を聞く。合理的配慮が必要であると思うが、障がい者の団体などとの意見交換などは行われるのか。

<全国都市緑化フェア推進課長>

どなたでも参加しやすいフェアを開催できるよう基本計画を策定する予定であり、そういう方々の意見を聞く場も検討していきたい。

<齊藤委員>

2市1町キャラクターアレンジについては、花などの植物をデザインするだけではなく、環境先進都市を目指していることが分かるようなデザインにしていただければと思う。

<全国都市緑化フェア推進課長>

各市町の象徴的なモチーフをデザインに加えてはどうかという案もあり、各市町のPRになるようなものにしていきたい。

<林委員長>

本日は菱田議長にも同席いただいている。意見があればお願ひする。

<菱田議長>

市民全員で楽しめる緑化フェアとしていただきたい。過去に開催された恵庭市では地域全体でかなり盛り上がっており、各家庭や商店など至るところで花壇が整備されていた。亀岡市においても機運の醸成に取り組んでいただきたい。

10:59

[まちづくり推進部退室]

[産業観光部、森の京都DMO入室]

[産業観光部長あいさつ]

(1) 森の京都DMOの活動報告について

[森の京都DMO社長あいさつ]

[森の京都DMO取締役説明]

11:21

[質疑]

<齊藤委員>

京都市でオーバーツーリズムが課題になっているが、今後京都市以外のローカルな

地域も注目されることになると思う。民泊として民家に旅行客を受け入れていただくためには準備が必要であるが、集落に入って説得いただくことが受け入れ態勢の整備につながるのではないか。京都市ではできることに取り組んでいただきたい。

<森の京都DMO社長>

今まで「見る」旅行が多くたが、コロナを経て「学ぶ」観光が注目されており、特に外国の方は歴史や特別感を好まれる傾向にある。都市部の子どもたちにとっても、「学ぶ」観光というのは重要であると感じている。また地域の方々にも民泊のよきを知っていただき、民泊の場所を増やしていきたい。今実施している事業をフルにした事業展開を考えていきたいと思う。

<山木委員>

亀岡市の観光の課題として、観光客1人当たりの消費額や滞在時間が少ないことがあると思う。多くの方に来ていただくというよりも、同じ方に何度も来ていただるために農泊はよい施策であると感じている。農泊・民泊の価格には日本人と外国の方に価格差はあるのか。

<森の京都DMO取締役>

価格に差はないが、農家へお支払する額を上げるためにコロナ後に値上げを行った。

<森の京都DMO社長>

コロナ禍に嵯峨野観光鉄道において、亀岡市を周遊して宿泊いただく高付加価値の旅行商品を旅行会社とタッグを組んで販売したが、結果としては極めて不振であった。そのこともあり、亀岡市での滞在時間をより多くするためには、何か変化が必要なのではないかと思っている。今後、全国都市緑化フェア in 京都丹波も開催されることから、関係市町や関係機関と連携して検討していきたい。

<山木委員>

観光消費額の単価を上げるために宿泊が必要になると思うが、そのための取組として朝食や朝のイベントと夜のイベントをセットにした商品がよいのではないかと思うがどうか。

<森の京都DMO社長>

現時点でそういう商品は扱っていないため参考にしたい。特別感ということがキーワードになると考えており、朝食に加えて、お寺に通常よりも早く開けていただき、参加者だけでの拝観や写経などを体験いただいてもよいのではないかと考える。

<山木委員>

亀岡市ではオーガニックに積極的に取り組んでおり、野菜もキーワードとして検討いただきたい。

<齊藤委員>

亀岡市は山城からの眺望もすばらしく、商品にならないかと考えている。外国人観光客が亀岡市内の民泊に1週間滞在され、民泊を拠点に各地を巡られることもあると聞いている。そういうことも含めて亀岡市にはまだまだポテンシャルがある。

<森の京都DMO社長>

そういう観光客に対し、アンケートなどでこの地域の魅力を聞き取った上で商品を開発できればよいと感じた。観光客だけではなく、地域の皆様が幸せになる取組ができればよいと考えている。

<木村委員>

2023年度事業報告において、売上げが倍増した要因は何か。

<森の京都DMO取締役>

付加価値の高い商品開発に取り組み、1人当たりの単価が上がっている。また客層

の多くが外国の方であり、インバウンドの影響もある。

<木村委員>

トロッコ列車が馬堀までしか来ないので、そこから市街地などにつながるような仕掛けができないかと考えているがどうか。

<小川委員>

関連質問として、JR嵯峨野線の線路を用いて、JR亀岡駅や、全国都市緑化フェア in 京都丹波の期間中のみJR園部駅までトロッコ列車を延伸させることは可能なのか。

<森の京都DMO社長>

JR嵯峨野線の線路をトロッコ列車が使用するためには、かなりの費用や調整が必要となるため厳しいと考えている。

<法貴委員>

森の京都DMOとして全国都市緑化フェア in 京都丹波とどのように連携していくのか。

<森の京都DMO取締役>

全国都市緑化フェア in 京都丹波では、都市型の緑化フェアとは異なる視点で、地域資源を生かして日本の原風景などを感じていただけるような商品を開発ていきたいと考えている。

<林委員長>

本日は菱田議長にも同席いただいている。意見があればお願ひする。

<菱田議長>

本日はお忙しい中お越しいただき感謝する。今後の観光振興のために、地域としても魅力を高める取組をしていきたい。森の京都DMOには、各地域の魅力をつなげていただけるような取組をぜひお願ひしたい。

11:56

[森の京都DMO退室]

## (2) 保津川舟運事業等安全対策協議会について

[商工観光課長 説明]

12:01

[質疑]

<齊藤委員>

協議会は今後も亀岡市からの補助金により運営するのか。

<商工観光課長>

そういうことも含めて今後検討していきたい。

<山木委員>

年1回計画されている水難救助訓練は、以前にも実施されていた亀岡消防署との訓練と同様のものなのか。

<商工観光課長>

そのとおりである。

<山木委員>

水難救助訓練は年1回のみなのか。

<商工観光課長>

計画では年1回としているが、今後検討を行う中で柔軟に対応できればと考えている。

<木村委員>

保津川下りの乗船料が値上げされたが、乗船人数も少なくされたのか。

<商工観光課長>

乗船料については今年の4月から改定され、従来の価格から1,500円値上げされた。乗船人数も減らされるとは聞いているが、詳細については資料を持ち合わせていない。

<観光振興係長>

料金改定については、安全対策や将来的なことを見据えた経営判断として改定に踏み切られたと聞いている。トラックの輸送費の高騰や船頭の確保も厳しくなる中で運行基準の見直しも行われており、今後運行便数が減ることも想定される。

<木村委員>

転覆事故は労災認定が下りるものかと思うが、保険などをしっかり備えておかなければ有事の際に対応できない。水難救助訓練についても、年2回以上実施いただければと思う。

<産業観光部長>

保津川遊船企業組合で備えられている保険について、同社に確認した上で今の御意見も伝えていきたい。また運行基準について、事故後に厳格に基準を見直したことにより、従来日本人体形を基準とした乗船人数を想定していたところを、インバウンドで外国の方も増えていることから総重量も考える中で乗船人数を見直されたと聞いている。水難救助訓練については、業種により必要とする訓練も異なることから、協議会の中で専門家の意見を聞きながら検討していきたいと考えている。

12:11

[産業観光部退室]

## 5 その他

<林委員長>

次の月例は、8月6日（火）午前11時から開催するのでよろしくお願ひする。

散会～12:12